

総括判断

我が国経済は、全体として需要の回復が弱く、厳しい状況をなお脱していない。しかし、各種の政策効果やアジア経済の回復などの影響から、景気は、緩やかな改善が続いている。企業の活動に積極性もみられるようになるなど、自律的回復に向けた動きが徐々に現れている。

全体として需要の回復が弱く、厳しい状況をなお脱していない。

個人消費
(p 3)

住宅投資
(p 5)

設備投資
(p 6)

公共投資
(p 8)

雇用情勢
(p 12)

しかし、各種の政策効果やアジア経済の回復などの影響から、景気は、緩やかな改善が続いている。企業の活動に積極性もみられるようになるなど、自律的回復に向けた動きが徐々に現れている。

金融政策
公共投資
住宅減税
信用保証 等

世界経済 (p 2)
輸出 (p 9)
生産 等

景気は、緩やかな改善が続いている

生産 (p 11)
設備投資 (p 6)
広告・リース 等

企業収益 (p 13)
企業の業況感 (p 13)



政策態度

政府は、公需から民需へのバトンタッチを円滑に行い、景気を本格的な回復軌道に乗せて行くとともに、21世紀の新たな発展基盤を築くため、経済新生対策を始めとする諸施策を推進する。

経済新生対策等の実施

公需から民需へのバトンタッチを円滑に行い、景気を本格的な回復軌道に乗せる

21世紀の新たな発展基盤

《世界経済の現状》

アメリカの景気は、先行きには不透明感もみられるものの、拡大を続けている。ヨーロッパの景気は拡大している。アジアでは、景気は回復している。

第1表 アメリカ・ヨーロッパの実質GDP成長率(前期比年率、%)

	97年	98年	99年	99年1-3月	99年4-6月	99年7-9月	99年10-12月
アメリカ	4.2	4.3	4.2	3.7	1.9	5.7	7.3
ドイツ	1.5	2.2	1.5	2.7	0.3	3.5	2.7
フランス	2.0	3.4	2.7	1.8	3.4	3.9	3.6
イギリス	3.5	2.2	2.1	1.6	3.0	4.1	3.1

第2表 アジアの実質GDP成長率(前年同期比、%)

	97年	98年	99年	99年1-3月	99年4-6月	99年7-9月	99年10-12月
中国	8.8	7.8	7.1	8.3	7.1	7.0	(1-12月) 7.1
韓国	5.0	▲ 6.7	10.7	5.4	10.8	12.8	13.0
台湾	6.7	4.6	5.7	4.2	6.6	5.1	6.8
タイ	▲ 1.7	▲ 10.2	4.2	0.2	2.6	7.4	6.5
インドネシア	4.7	▲ 13.2	0.2	▲ 7.9	3.3	0.7	5.8